

第466回 2月26日開催
出席委員(50音順・敬称略)

朝野 富三	荒巻 裕
大村 英昭	木下 明美
倉光 弘己	黒田 勇
櫻井 美幸	森 輝彦

ラジオ特別番組

「第21回 毎日カルチャースペシャル 東大寺大仏開眼1250年
高円・春日野の道ラジオウォーク ~古人の恋歌・平成の恋歌~」
2月11日(月)午後0時30分~5時38分 放送分

荒巻委員

リスナーと文字通り共に歩くという企画で、ラジオの可能性が期待できる番組だ。ただ、参加者の生の声が聞けなかったのは残念だ。また、言葉と言葉の間に間(ま)がもう少しあったらよかったと思う。今後もマンネリ化に陥ることなく発展させていってほしい。

倉光委員

腰を据えて聴くと言うのは、現場を歩く以上に疲れるものだ。それは、全体の進行に山や谷があまりなかったからだと思う。5時間というロングランの中に、興味深い歴史的な裏話のようなものが幾つかあったら、全体の流れに変化も出たのではないかな。

黒田委員

出演者のしゃべり過ぎがやや気になったが、地域アイデンティティーの観点から言えば、このイベントは、時間の共有、継続性、街に出るということなど3拍子も4拍子も揃った企画だと思う。奈良という限定された地域のイベントなので、今後別の角度からのアプローチを考えることも必要だろう。

木下委員

この番組は、現場を歩いていない一般のリスナーには、なかなかイメージが広がりにくいので聴くのが難しい面があると思う。その意味で後半は、ディスクジョッキー的な面白さで一般のリスナーも楽しむことができたのではないかな。

朝野委員

このイベントは、ラジオと新聞が一緒になったメディアミックスの催しとしては理想的な展開になっていると思う。今回から、モバイル時代にふさわしいiモードを取り入れたことで、新たな可能性も期待できるのではないかな。

櫻井委員

出演者もそれぞれ持ち味が出ていて、4時間近くのウォーキング自体の放送は、大変楽しく聴くことができた。ただ、後半のスタジオからの放送は急にトーンが変わってしまったので、構成も含め工夫の余地があると思う。

大村副委員長

当日は時々雪が舞う寒い日だったが、その雰囲気を含め非常にライブ感覚にあふれていて楽しかった。テレビはどのチャンネルも冬季オリンピックの話題ばかりだったので、これこそラジオだという番組を十分に堪能できた。

森委員長

送り手側がよく情報を仕込んでいたということと、その情報を出演者がうまく表現していたことで、ラジオのコミュニケーションの力を再認識した。歌の選曲や場所の移動についての説明などに工夫があってもいいが、スケールの大きい非常に良い番組だと思った。

IT戦略本部の「ハード・ソフト分離論」について

政府のIT戦略本部が打ち出した「ハード・ソフト分離論」に対して、放送業界などが「放送言論機関として両者が一体になっていることが不可欠である」ということを理由に反対している問題について担当局長が報告した。